



平和と戦争について考えましょう

平和と戦争は表裏一体の関係にあります。昨年来、欧州における NATO 拡大と将来のウクライナ加入の可否を巡ってロシアと欧米諸国は対立していましたが、2月24日早朝に突如としてロシアはウクライナに軍事侵襲して戦争状態になりました。その火種はナイチンゲールが看護婦として従軍したクリミア戦争の頃(19世紀中頃)に遡ることができます。日本ではこれからも平和が存続するのでしょうか。鎖国の江戸時代に別れを告げて、明治の日本は富国強兵へと国家の近代化を図りました。日露戦争で勝利を収めたのちも、なぜか日本は戦争をくり返して昭和20

年には全国が焦土と化しました。それから七十余年経過して戦争の体験談を聞く機会もなくなりつつあります。現代史は入試問題の対象にならないこともあり学校教育では避けられていますが、未来の日本が平和であり続けるためどうすれば良いのかを考える上で、若人の皆さんには戦争のことを是非知ってほしいと思います。昨年亡くなった半藤一利氏には戦争に関する多くの著書がありますが「戦争というもの」は入門書としては読みやすいと思います。その延長線上になりますが、戦争に至った現代から遡って日本の国の成り立ちを知る上で、司馬遼太郎の「この国のかたち」もお勧めします。すると明治以後の日本が戦争に負けるべくして負けたのだということが良くわかります。

明治の文豪夏目漱石の小説「三四郎」の中で、ある先生が「日本で誇れるものは富士山くらいだ。自然以外にはない。」と言い、三四郎が「日本もこれから伸びていくのでは」との問いかけに「いや滅びるね」と答えます。昭和20年を予言していたかのようでした。口語体の文章の完成は漱石に始まるとも言われていますので、「坊ちゃん」と合わせ一



『戦争というもの』
半藤一利
PHP 研究所
210.75||H29



『この国のかたち』
第1巻～第6巻
司馬遼太郎
文春文庫
文藝春秋
914.6||Sh15||1～6



『三四郎』
夏目漱石
新潮文庫
新潮社
913.6||N58



『坊っちゃん』
夏目漱石
新潮文庫
新潮社
913.6||N58

読をお勧めします。明治時代の日常の雰囲気を感じることができると思います。昭和の戦争前後時代では青森が生んだ太宰治の文学をお勧めします。短編小説の「津軽」「女生徒」「ヴィヨンの妻」「人間失格」などなど現在では i 文庫でたくさん楽しむことができます。



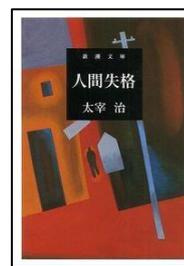
『津軽』
太宰治
新潮文庫
新潮社
913.6||D49



『女生徒』
太宰治
角川文庫
角川書店
913.6||D49



『ヴィヨンの妻』
太宰治
新潮文庫
新潮社
913.6||D49



『人間失格』
太宰治
新潮文庫
新潮社
913.6||D49

i 文庫とは・・・

iPad・iPhone・iPod touch で
電子書籍を読むためのアプリケーションです。

インストールすると、

青空文庫に収録されている 1 万冊以上の本を読むことができます。

青空文庫は、著作権が消滅した名著や著者が許諾した作品を集めて電子化し、
無料公開しているサイトです。

青空文庫へは iOS 以外からでもアクセス可能です。

